

基礎研修 第1回:オリエンテーションと専門職の使命

1. はじめに:私たちの原点と目指す場所(研修の目的)

ようこそ! 今日から始まるこの研修は、皆さんが子どもたちの未来を支えるプロフェッショナルとして、自信と誇りを持って輝くための学びの場です。

第1回となる本日は、私たちの仕事の「羅針盤」とも言える、最も大切な部分に焦点を当てます。それは、私たちがなぜこの仕事をするのかという「理念」と、専門職としてどう行動するべきかという「倫理」です。日々の業務に追われると、つい目の前のことだけになりがちですが、時々この原点に立ち返ることが、質の高い支援を継続する上で不可欠です。

今日この場所で、私たちの仕事の意義を再確認し、明日への活力を共に得ていきましょう。

2. 私たちが大切にする理念とビジョン

私たちの法人/事業所が社会に対して果たすべき使命、それが「理念」です。そして、その理念を実現した未来の姿が「ビジョン」です。

<理念>

『〇〇〇(ここに貴法人の理念を記入)』

- (解説例)これは、障がいの有無や年齢に関わらず、誰もが「こうなりたい」「やってみたい」という希望を持ち、失敗を恐れずに一歩を踏み出せる、そんな社会を私たちの手で創りしていくという強い決意表明です。

<ビジョン>

『〇〇〇(ここに貴法人のビジョンを記入)』

- (解説例)私たちは、子どもたちが自分の夢を見つけ、挑戦という航海に出る時に、進むべき道を指し示し、時に一緒に悩み、励ます「コンパス」のような存在でありたいと考えています。

【グループワーク】(20分)

私たちの理念『〇〇〇』は、壮大であると同時に、日々の小さな実践の積み重ねによって実現されま

す。

3~4人のグループで、この理念をあなたの日々の業務でどのように実践できるか、子どもたちの「夢」や「挑戦」を応援する具体的なアクションについて話し合ってみましょう。

- 話し合いのヒント

- 子どもの「好き」「やってみたい」という気持ちを、どうやって見つけますか？
- 失敗を怖がっている子に、どんな言葉をかけますか？
- 子どもが抱いた小さな夢を、どうやって活動に繋げますか？

- アクションの具体例

- 電車が好きなA君の「運転手になりたい」という夢を尊重し、電車の絵本を一緒に見たり、製作活動に取り入れたりする。
- ブロックで高いタワーを作るのに何度も失敗しているBちゃんの挑戦に、「あと少しだね！」「ここをこうしたらどうかな？」と声をかけ、諦めずに挑戦する気持ちを応援する。

＜ディスカッション・メモ欄＞

3. 児童福祉の歴史と私たちの役割

私たちが今当たり前に行っている「地域での個別支援」は、長い歴史と多くの人々の努力の上に成り立っています。その変遷を知ることで、私たちの現代における役割がより明確になります。

時代	考え方の変化	私たちの役割
昔(施設中心の時代)	障がいのある人々を社会から隔離し、特定の施設で保護・管理することが中心でした。「集団」として同じ生活を送ることが多く、個人の意思が尊重されにくい側面がありました。	利用者の安全を確保し、身の回りの世話をすることが主な役割でした。
今(地域中心の時代)	1981年の国際障がい者年を契機に、「ノーマライゼーション(障がいのある人もない人も等しく生きる社会)」の理念が広まりました。障がいは個人の問題ではなく、社会の側にある障壁の問題だと捉える「社会モデル」へと転換し、一人ひとりの人権と個性を尊重し、住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることが当たり前になりました。	私たちの役割は、単なる身辺の世話係ではありません。子どもの自己決定を尊重し、その子らしい夢や挑戦を社会の中で実現できるよう、環境を整え、必要なスキルを共に学び、社会との橋渡しをする「伴走者(パートナー)」です。

【用語解説】自己決定の尊重とは？

本人が「こうしたい」「これがいい」と自分で考え、選び、決める 것을、専門職として最大限に大切にすることです。私たちの価値観で「こっちの方が良い」と決めるのではなく、たとえ言葉でうまく言えなくても、本人の表情や視線、指さしなどから気持ちを汲み取り、本人が選べる選択肢を提示し、その

決定を支援することが求められます。

4. 専門職としての倫理綱領

私たちは、子どもとご家族の人生という、非常にデリケートで大切な領域に関わる専門職です。だからこそ、高い倫理観に基づいた行動が求められます。倫理とは、私たち自身を守り、子どもと家族を守り、そして社会からの信頼を得るために「プロフェッショナルの行動規範」です。

＜専門職として守るべき6つの倫理＞

1. 個人の尊厳と人権の尊重

どんな障がいや背景があっても、すべての子どもは一人の人間としてかけがえのない存在です。その子の人格、個性、価値観、そして「子どもらしさ」をありのまま受け止め、最大限に尊重します。

2. 守秘義務の徹底

業務上知り得た子どもや家庭に関する個人情報を、正当な理由なく第三者に漏らしてはいけません。これは法律で定められた義務であり、利用者との信頼関係の根幹です。退職後もこの義務は続きます。

3. 受容と共感

子どもの行動や保護者の悩みに対して、すぐに「良い/悪い」の判断を下すのではなく、まずはその背景にある感情や思いに寄り添い(受容)、相手の立場に立って気持ちを理解しようと努める(共感)姿勢を持ちます。

4. 公平・公正な関わり

職員個人の感情や価値観で支援内容に差をつけることなく、すべての子どもに平等・公平に関わります。一人ひとりのニーズに応じた個別的な支援は「えこひいき」とは全く異なります。

5. 専門性の向上

私たちの支援は、常に最新の知識や技術に基づいている必要があります。日々の実践を振り返り、研修などを通じて積極的に学び続け、自身の支援の質を高めていく責務があります。

6. 説明責任と透明性

行う支援の目的や内容について、子ども本人(年齢や理解度に応じて)や保護者に、分かりやすい言葉で丁寧に説明する責任があります。利用者の理解と同意(インフォームド・コンセント)に基づいた支援を徹底します。

【チェックリスト】明日から実践する！専門職の行動

- 支援を始める前に、子どもの目線に合わせて「〇〇さん、おはよう」と名前を呼んで挨拶をする。
 - 子どもが何かを選ぼうとしている時、最低10秒は黙って待つ。
 - 事業所の外(帰り道やプライベートなど)で、利用者に関する具体的な話をしない。
 - 子どもの行動に対して「なぜ？」と問う前に、「どうしたかったの？」と気持ちを聴く。
 - 今月、何か一つでも新しい知識(本、研修、記事など)に触れる。
-

【講師用原稿(スクリプト)】(想定時間:120分)

はじめに(10分)

皆さん、こんにちは！本日から始まる児童指導員専門研修へようこそ。講師の〇〇です。どうぞよろしくお願ひいたします。

この研修が、皆さん日々の支援にさらに自信を持ち、もっとこの仕事が好きになる、そんな時間になることを目指しています。専門的な知識はもちろんですが、日々の悩みや喜びを分かち合えるような、温かい場にいきたいと思っていますので、リラックスして参加してくださいね。

さて、記念すべき第1回のゴールはこちらです。「私たちの仕事の『なぜ』と『どうあるべきか』を理解し、明日からの行動指針を持つ」。つまり、私たちの仕事の根幹となる『原点』を確認する時間です。

まずは少し肩の力を抜きましょう。お隣の方とペアになって、「この仕事を選んだ理由」をテーマに、1分ずつ自己紹介をお願いします。では、どうぞ！

(ペアワーク後)

ありがとうございます。素敵な理由ばかりですね。その温かい気持ちを大切にしながら、本日の内容に入りていきましょう。

理念とビジョンの共有(30分)

それでは本題です。皆さん毎日働くこの場所には、とても大切な『理念』、つまり『羅針盤』があります。それが、『〇〇〇(ここで法人の理念を読み上げる)』です。

壮大で、とてもワクワクする理念ですよね。これは、私たちが支援の方向性に迷った時、あるいは困難に直面した時に、必ず立ち返るべき最も大切な原点です。そして、この理念が実現した未来の姿が、ビジョンである『〇〇〇(ここで法人のビジョンを読み上げる)』ということです。私たちは、子どもたちの夢と挑戦という航海を導く、コンパスのような存在なんですね。

では、この素晴らしい理念を、ただの「壁に貼ってある言葉」で終わらせないために、皆で具体的に考えてみましょう。お手元の資料にある通り、3~4人のグループで、この理念『〇〇〇』を明日からの仕事でどう実践できるか、子どもたちの夢や挑戦を応援する具体的なアクションについて話し合ってください。時間は20分です。どんな小さな「やってみたい」を応援できるか、活発な意見交換を期待しています！

(講師は各テーブルを巡回し、議論を促進する)

はい、ありがとうございます。では、各グループから「明日からこれをやってみたい！」という素敵なアクションを1つ発表してください。

(発表後)

素晴らしいですね！「失敗しても大丈夫だよ、と笑顔で伝える」「好きなものを徹底的に一緒に調べる」...どれもすぐに実践できる、理念に基づいた行動です。子どもたちの小さな『やってみたい』を応援すること、それこそが、私たちの理念の実践そのものです。ぜひ今日出たアイデアを明日から試し

てみてください。

児童福祉の歴史と私たちの役割(30分)

次に、少し視野を広げて、私たちの仕事が社会の中でどのような役割を担っているのか、歴史を紐解きながら見ていきましょう。

実は、今のように障がいのある子どもたちが地域で当たり前に暮らすようになったのは、それほど昔のことではありません。かつては、大きな施設で集団生活を送ることが主流でした。そこでは子どもたちの安全を守るという大切な役割がありましたが、一方で、一人ひとりの「こうしたい」という思いが尊重されにくい側面もありました。

しかし、時代は大きく変わりました。「障がいのある人もない人も、等しく生きる社会が当たり前だ」という「ノーマライゼーション」という考え方方が世界の共通認識になったんです。

ここで重要なのが、障がいの捉え方の変化です。昔は、障がいは個人の問題と考えられていました。しかし今は違います。例えば、車椅子の人が階段を上れないのは、その人の足が悪いからではなく、階段しかないという「社会の側の障壁」が問題なのだ、と考える。これが「社会モデル」です。

この考え方の転換によって、私たちの役割も大きく変わりました。私たちはもはや、単に身の回りのお世話をするだけではありません。子どもが夢に向かって挑戦する上で障壁となるものを、本人と一緒に取り除いたり、乗り越える方法を考えたりする「伴走者(パートナー)」なんです。

その上で欠かせないのが、お手元の資料にある「自己決定の尊重」です。これは、お子さん本人が「こうしたい」と自分で考えて決めることを、私たちが最大限に大切にする、ということです。私たちの価値観を押し付けるのではなく、本人の気持ちを汲み取って、本人が選べるように手伝うことが求められます。皆さんは、子どもたちの人生の土台を作る、本当に尊い仕事をしているということを、ぜひ心に留めておいてください。

休憩(10分)

はい、ではここで10分間の休憩を取ります。頭を使ったので、少しリフレッシュしてくださいね。

専門職としての倫理綱領(30分)

さて、後半は、専門職として「自分を守り、相手を守り、社会からの信頼を得る」ために不可欠な「倫理」についてです。これは、私たちがプロとして安心して働き続けるための、いわば「お守り」のようなものです。

お手元の資料に沿って、6つの重要な倫理を確認ていきましょう。

(各項目を、具体的なNG例・OK例を交えながら、語りかけるように分かりやすく説明する)

特に守秘義務は、信頼関係の第一歩です。例えば、事業所の外で、他の職員と利用者さんの話をするのは絶対にNGです。「誰も聞いていないだろう」という油断が、信頼を根底から覆します。これ

は皆さん自身を守るために非常に重要です。

また、受容と共感。つい「ダメでしょ！」と言いたくなる場面で、一呼吸おいて、「そうしたかったんだね。でも、お友達が痛いから、こうしてみない？」と言い換えられるかどうか。この一呼吸が、専門職としての価値を高めます。

(6つの項目を説明し終えたら)

最後に、今日学んだ倫理を具体的な行動に落とし込むためのチェックリストです。これは自分自身の行動を毎日振り返るためのツールです。完璧でなくても構いません。一つでも意識してみることから始めましょう。

まとめと質疑応答(10分)

皆さん、長時間の研修、本当にお疲れ様でした！本日は、私たちの仕事の『理念』と『倫理』という、揺るぎない土台を皆で固めました。日々の支援で迷った時は、ぜひ今日の資料を見返して、この原点に立ち返ってください。

理念があるから、私たちの仕事はブレない。倫理があるから、私たちはプロとして信頼される。この両輪を大切に、明日からの支援に臨んでいきましょう。

何かご質問はありますか？研修内容以外のことでも構いませんよ。

(質疑応答後)

次回は、子どもたちの権利を守る上で非常に重要な『子どもの権利擁護と虐待防止』について学びます。また皆さんと元気にお会いできるのを楽しみにしています。本日は本当にありがとうございました。